

都道府県名

宮 城 県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	大河原町立大河原南小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	2	2	2	2	2	1	12	17
児童数	36	49	44	44	55	47	1	275	

研究の概要

1. 研究主題

楽しく学び、確かな学力を身に付ける子どもの育成
 - 基礎・基本を定着させるきめ細かな学習指導の工夫をとおして（国語・算数） -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

実施学年：全学年
 教 科：国語・算数
 選択理由：国語科は、全ての学習の基礎となるものであり、また、学校として、当該教科に関する研究実績があるため。
 算数科は、児童の理解の状況に個人差が出やすいため。

(2) 年次ごとの計画

平成 15 年 度	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本を定着させるきめ細かな指導の工夫をとおして、確かな学力を身に付ける学習指導の在り方を明らかにする。 <p>研究の見通し（仮説）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人に応じたきめ細かな学習指導において、次のような手立てをとれば、基礎・基本の定着が図られ、確かな学力が身に付いた子どもが育つであろう。 <p>（手立て1）学びが実感できる指導と評価の工夫（学びの一体化） （手立て2）児童の実態に応じたきめ細かな指導の工夫（指導体制） （手立て3）学び方の体得と意欲の向上を図る指導の工夫（指導過程の工夫） （手立て4）学校と家庭・地域との連携（学校の特色）</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 実態調査と研究計画の立案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力診断テストの実施 ・意識調査や実態調査の実施 ・「確かな学力」のおさえ ・研究主題、研究目標、研究仮説の設定など
--------------------	--

- (2) 国語科・算数科の授業を1・2・3の手立てから工夫し、基礎・基本の定着に努める
- ・カリキュラムの改善と充実
 - ・自己評価カードの活用
 - ・授業研究の日常化
 - ・指導体制の工夫
 - ・指導方法の工夫
 - ・補充的な学習，発展的な学習の在り方
- (3) 4の手立てから学校と家庭・地域との連携を密にし、基本的な生活習慣の定着と家庭学習の習慣化を図っていく。
- ・「南小をよくする推進委員会」の発足
 - ・授業参観や講演会の実施
 - ・学校便り，学年便り，フロンティア通信，ホームページ等による情報発信
- (4) 学力向上フロンティア町内公開研究会を実施し，実践を公開したり授業について協議したりして研究の成果を普及する。また，今後の研究に生かしていく。
- (5) 文献研究や先進校視察，講師を招聘しての研究会を実施。
- (6) 研究の中間まとめをし，成果と課題を明らかにする。

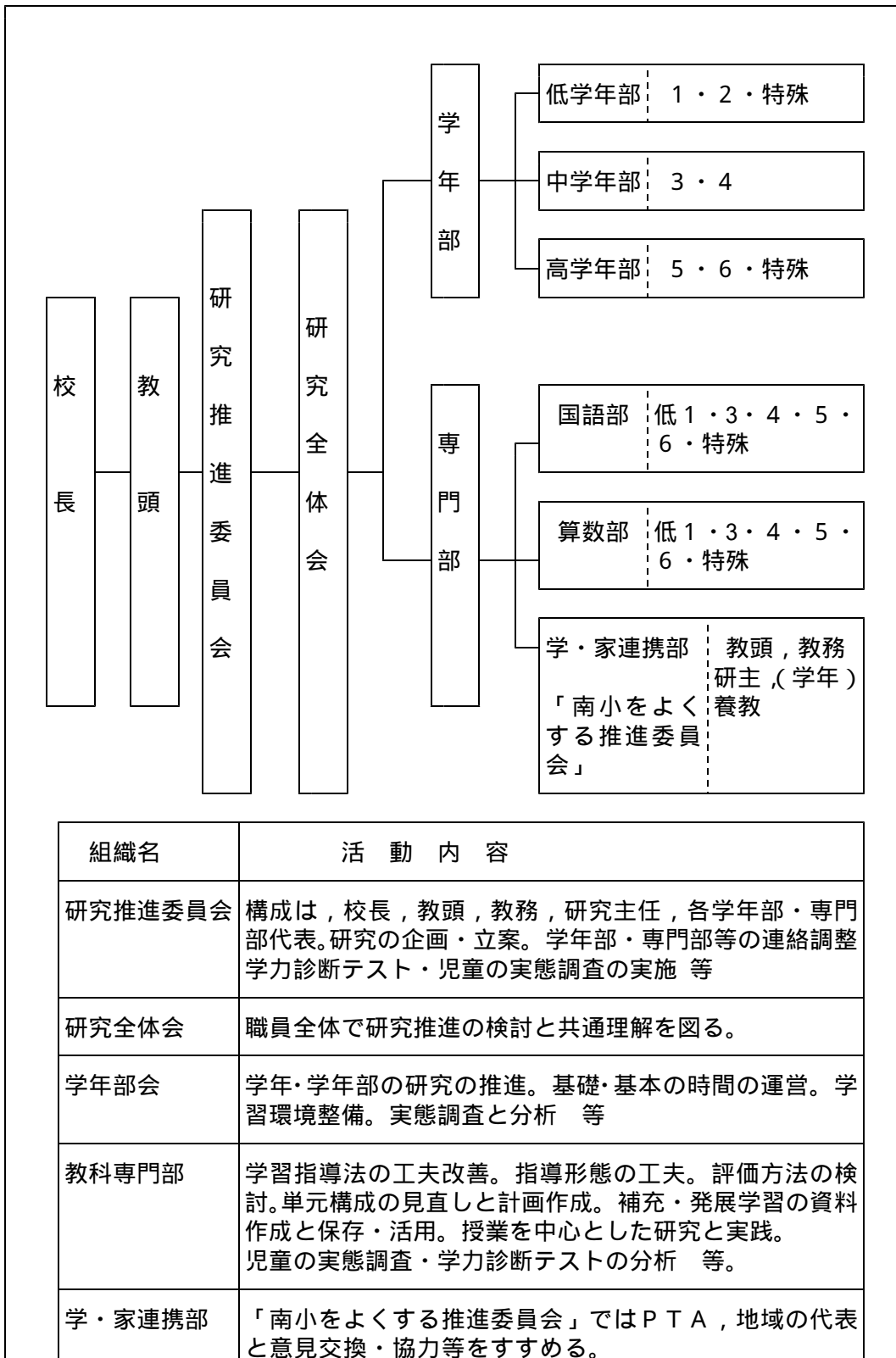
平成
16
年度

テーマ

- ・基礎・基本を定着させるきめ細かな指導の工夫をとおして，確かな学力を身に付ける学習指導の在り方を明らかにする。
- 研究の見通し（仮説）
- ・児童一人一人に応じたきめ細かな学習指導において，次のような手立てをとれば，基礎・基本の定着が図られ，確かな学力が身に付いた子どもが育つであろう。
- （手立て1）学びが実感できる指導と評価の工夫（学びの一体化）
- （手立て2）児童の実態に応じたきめ細かな指導の工夫（指導体制）
- （手立て3）学び方の体得と意欲の向上を図る指導の工夫（指導過程の工夫）
- （手立て4）学校と家庭・地域との連携（学校の特色）
- 研究の内容・方法
- (1) 研究改善と検証・まとめ
- ・研究主題・研究目標・研究仮説の検討
- (2) 国語科・算数科の授業を1・2・3の手立てから工夫し，基礎・基本の定着に努める
- ・カリキュラムの改善と充実
 - ・相互評価を生かした自己評価カードの活用
 - ・授業研究の日常化
 - ・指導体制の工夫（特に習熟度別指導）
 - ・指導方法の工夫（特に指導過程）
 - ・補充的な学習，発展的な学習の在り方
- (3) 4の手立てから学校と家庭・地域との連携を密にし，基本的な生活習慣の定着と家庭学習の習慣化を図っていく。
- ・「南小をよくする推進委員会」の活動
 - ・授業参観や講演会の実施
 - ・学校便り，学年便り，フロンティア通信，ホームページ等による情報発信
- (4) 児童の変容と研究の成果や課題についてまとめる。
- (5) 学力向上フロンティア公開研究会を実施し，実践を公開したり授業に

ついて協議したりして研究の成果を普及する。また、今後の研究に生かしていく。

(3) 研究推進体制



「南小をよくすすむ推進委員会」	情報発信（学校・学年便り，フロンティア通信。リーフレット，ホームページ等）で，基本的な生活習慣・学習習慣の形成と定着を図る。授業参観。講演会。
-----------------	---

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

「楽しく学び，確かな学力を身に付ける子どもの育成」を目指し，児童の実態に応じたきめ細かな学習指導として，習熟度別学習や少人数学習，T・T指導等を取り入れた授業実践中心の研究をすすめてきた。また，子どもの生活の基盤である家庭や地域にも働きかけ，学習習慣や基本的な生活習慣の形成・定着を目指してきた。

成果は下記のとおりである。

(1) 学びが実感できる指導と評価の工夫（学びの一体化）

単元全体の指導計画をたてる際に，どのような指導形態をとったら効果的な指導を行えるか考えることにより，単元のねらいや評価規準が明確になった。単元の学習計画とそれに合わせた自己評価欄を組み合わせた振り返りカードを使用したことにより，児童は，学習への見通しを持ち，主体的に学習に取り組む姿がみられるようになった。

また，一単位時間毎の自己評価を記述式にしたところ，学習内容についての自己分析をする児童が増えてきた。コース選択をする際の自己評価能力の高まりが期待できる。

習熟度別学習を取り入れた指導計画作成では，どのコースも総単元時数は同じであるが，指導内容によって指導時数を増減して指導にあたったことで個に応じた学習を展開することができた。児童の学習意欲・理解力が高まった。

(2) 児童の実態に応じたきめ細かな指導（指導体制）

全学年において少人数指導や習熟度別学習指導，T・T指導を継続的に実施したことにより，個に応じたきめ細かな指導体制が展開できるようになった。

児童の意識調査からも，分からない時にすぐ聞ける，分かりやすい，自分に合った学習ができるといった反応が多く，少人数，習熟度，T・T指導を受け入れている。

習熟度別学習を行う場合は，レディネステストやオリエンテーリングで各コースの学習内容や計画について十分な理解を図ったり，保護者へは，学年便りで学習内容やねらい等を知らせ，理解と協力を得るようになりした。児童は，教師や保護者のアドバイスを受けながら自分でコースを選択することを基本としてきた。

課題別・表現別・習熟度別学習は，そのコース毎に指導方法を工夫していくことができた。児童からは「分かりやすい」といった調査結果で出ている。また，保護者からも「学習中の様子を子どもが話すようになった」「よく手を挙げるようになった」等という声が寄せられるようになった。

学習に対して，積極的な姿勢で臨む児童が増えてきた。

算数科では，習熟度別学習を中心に取り組んだ。下学年では，単元の終わりの方で，上学年では単元のはじめの方から実施したことによって，つまづきを克服したり，理解力に応じた指導方法を展開することができた。

国語科では，教科の特性から習熟度別学習は難しいのではないかとし，研究当初は課題別学習を実施してきたが，中学年以上になると学力の個人差が広がりつつあるので，児童の実態を考慮した習熟度別学習を取り入れてみた。

その結果、コースによって指導方法を工夫したので、教師側からは指導しやすい、支援のポイントを絞りやすいといった感想が出された。児童側からは、できるようになった、勉強する気が出てきたという感想が出されるようになってきた。

国語科での習熟度別学習は、児童の学習意欲の喚起、学習の定着に効果がありそうである。今後も継続研究をすすめる。

繰り返し学習として、一単位時間の導入時に、本単元に関する内容を取り入れたり、朝の基礎・基本の時間に、漢字・計算・読書を実施したりした。

短時間でも継続的に学習することで基礎学力の底上げが図られた。

(3) 学び方の体得と意欲の向上を図る指導の工夫（指導過程の工夫）

児童の考える力、課題を見付け問題を解決する力を育成するために、課題を明確にし、自力で解決する場を設けた。児童は、自分なりに問題に向かい解決しようとする学習の習慣が少しずつではあるが見受けられるようになった。

「話を聞く」「自分の考えを持ち、発表する」「鉛筆の持ち方やノート指導」といった学習訓練の徹底のために、学年に応じた話形やノートの使い方を掲示・指導にあたったことにより、聞く態度や鉛筆の持ち方に気を付けようとする意識が少しずつではあるが浸透してきた。

習熟度別学習では、コースに応じた学習内容や学習問題・学習プリントを使用したことにより、個に応じた指導を行うことができた。

少人数教室・低学年棟に「積み重ね算数コーナー」を設置したことにより、児童は自分の都合のよい時間に、主体的に学習をすすめることができるようになってきた。

(4) 学校と家庭・地域との連携（学校の特徴）

授業参観日には、通常の学級での授業だけでなく、習熟度別学習の授業参観を設定した。その際、授業についての感想を記入してもらった。保護者の学習に対する意識を把握することができるとともに、学校教育に対する関心を高めるのに効果的であった。

各種通信を発行したり講演会を開いたりしたことは、家庭や地域の方々に学校の様子を知ってもらったり、理解や協力を得たりするのによい方法だった。

「南小をよくする推進委員会」を設置し、学校の取組について等について話し合ったことは、開かれた学校・学校を中心とした地域ぐるみの教育として活動をはじめることができた。

様々な方法で学校と家庭・地域との連携を図ったことで、保護者や地域の方々が、自分の子どもはもちろん、地域の子供達をみんなで育てていこうとする気持ちが広がりつつある。

2. 今後の課題

(1) 学びが実感できる指導と評価の工夫（学びの一体化）

どの単元の、どの時間に、どのような指導体制を組んだら効果的なのか今後も継続的に研究を積み重ねることが必要である。

ふりかえりカードを活用してきたが、評価欄を工夫するなど更に自己評価能力を高めていきたい。また、自己評価だけでなく相互評価を加味した自己評価の在り方も研究する必要がある。

年間指導計画に評価規準を明示するだけでなく、どのような方法で、何で評価をするのかの具体を作成していく事が重要である。

(2) 児童の実態に応じたきめ細かな指導（指導体制）

習熟度別学習では、補充的な学習だけでなく、発展的な学習も積極的に取り入れていくことが必要である。

国語科では、どの単元の、どの場面で習熟度別学習を実施することが効果的なのか更なる研究を要する。

少人数、習熟度別、T・T指導を行う際、指導や評価、情報交換等に関する担当者間の十分な話し合いの時間を確保。

習熟度別・少人数指導を実施する際、学年や単元、指導者によって更に工夫改善をしていく必要がある。

(3) 学び方の体得と意欲の向上を図る指導の工夫（指導過程の工夫）

問題解決的な学習の流れを指導の中に積極的に組み入れていくことによって学び方の定着を図るとともに、児童の多様な考えを引き出す指導の在り方を今後も追求する必要がある。そして、互いの練り合い・学び合いの場の設定も考えていくことも大事である。

互いの考えの練り合い、学び合いの場の設定の工夫を考えていく。

(4) 学校と家庭・地域との連携（学校の特徴）

学校で学習したことを家庭で復習し、学習内容を自分のものとするために、家庭学習の一層の定着を図る必要がある。

学校が主体となる地域発信や連携の在り方を今後も検討していきたい。

学力等把握のための学校としての取組

学力診断テスト（学研式）

- ・目的： 児童の学習の定着度合いや傾向を客観的に調査する。
- ・実施内容： 全学年の国語科と算数科
- ・時期： 平成15年5月30日実施

児童の意識調査

- ・目的： 児童の学習についての意識や家庭での生活・学習についてを把握して手立てを講じたり、変容を捉えたりする。
- ・実施内容： 国語科・算数科・少人数学習・家庭学習などについての実態
- ・時期： 平成15年8月27日、9月27日実施
平成16年2月実施予定

鉛筆の持ち方調査

- ・目的： 基本的な学習習慣のひとつである学習用具の扱い方をしっかり定着させるとともに、書くことについての心構え、ひいては学習全般についての意識付けを図る。
- ・実施内容： 鉛筆の正しい持ち方の実態
- ・時期： 平成15年4月25日、7月18日、12月22日 実施
平成16年1月実施予定（月1回ずつ）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究会

- ・日時： 平成15年11月21日 第2回指導主事訪問時の13:00~14:40
- ・場所： 大河原南小学校
- ・対象： 町内小中学校教員と保護者
- ・目的： 指導主事訪問の機会を通して、町内の小中学校教員と保護者に学力向上に向けての研究について知ってもらうともアドバイスを受ける。
- ・開催予定： 平成16年11月13日

・ 研究の成果発表とその普及

HP作成：平成16年1月
パンフレット作成予定：平成16年4月

フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績と予定
・活動実績：大河原町小中学校研究主任者会において研究の取組について紹介。
(平成15年11月6日，12月24日実施)
(実施予定は平成16年2月と平成16年度)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 ■ 15年度からの新規校 □ 14年度からの継続校

【学校規模】 □ 6学級以下 ■ 7～12学級
□ 13～18学級 □ 19～24学級
□ 25学級以上

【指導体制】 ■ 少人数指導 ■ T・Tによる指導
□ 一部教科担任制 □ その他

【研究教科】 ■ 国語 □ 社会 ■ 算数 □ 理科
□ 生活 □ 音楽 □ 図画工作 □ 家庭
□ 体育 □ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 ■ 有 □ 無